

写真展「素晴らしきインドネシア」



School of Under the Rail bridge

日本大使賞 江頭史郎さん
2007年11月9日、江頭史郎さんは、ジャカルタ・コタの線路脇に仮設されたテントでできた校舎にいた学校に通えない付近の子供たちが集まっていた。「学校に行くと勉強できるのが嬉しい」という意識が子どもにあるのを感じ、カメラでその一瞬を切り取った。

邦人が写したインドネシアの素顔

JAK-JAPAN Matsuri 2009 logo and text: 出展作品を一挙紹介

会場には大勢の邦人やジャカルタ市民が詰め掛け、展示された作品を興味深く鑑賞する姿が見られた。

写真展は来年以降、ジャカルタ日本祭りに合わせた企画として、インドネシア各地の在留邦人が撮影した作品を公募し、コンテスト形式で継続することを計画している。

アマンジオの虹/ジョクジャカルタのホテルアマンジオにて
三森博美さん
2年前の12月にジョクジャカルタへ、夕刻、小雨模様だったのが晴れてきたので、ホテルから出て写真を撮っていたところ、虹が出ていた。



「祭りの会」による餅つきデモンストラーション/インドネシア大学にて



夕照に輝くビーチ/ロンボク島のノボテルホテルビーチにて

三森勇人さん
休みに、妻の博美さんと一緒に、各地を回り、写真を撮っているという三森勇人さん。作品は2007年12月31日にロンボク島で撮ったもの。きれいな雲と夕陽があかぬ色に染まっていた様子を写した。左下には海から上がってくる親子雲が写り込んでいる。

夜のパスアル/バリにて
高木裕明さん
ジャカルタに来て3年、高木裕明さんが昨年10月、家族とバリの伝統舞踊「チャット・ダンス」を見て帰りに、半島の木霊を撮った。リゾート地ならではの「パスアル」(市場)に出かけた。



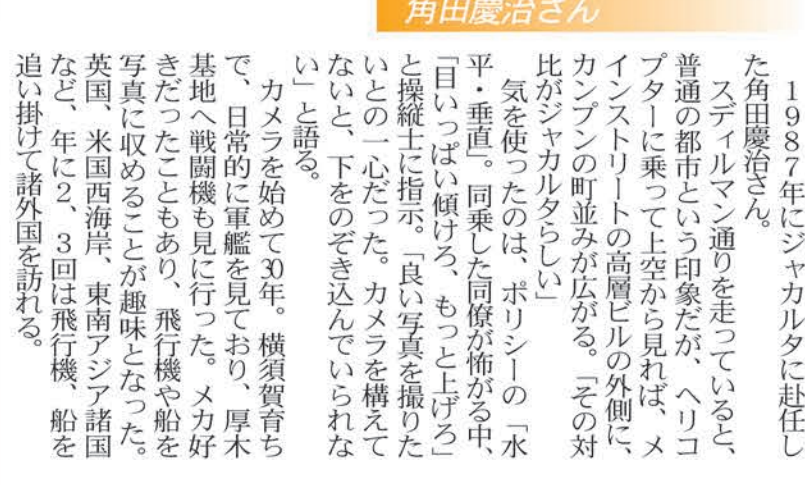
A certain morning nykaさん

写真を撮るために通い続けている中央ジャカルタの独立記念塔(モナス)広場で、昨年12月の早朝に撮影。その日その日で状況が異なるため、無駄足で終わることが多い。この日モナスは気ままな顔を見せていたが、今回は上手にまどめられたという。



姉妹
「日本にいる時から写真を撮るのが好きだった」「いいなと思えば、一気に写真を撮る」と語るのは木村小百合さん。ジャカルタ日本祭りの実行委員会賞を受賞した作品は、2008年12月にジャカルタで撮影したもの。

へりより空撮
角田慶治さん
1987年7月にジャカルタに赴いた角田慶治さん。スプレッドを走り回って、普通の飛行機という印象だが、ヘリコプターに乗って上空から撮った。インストラクターの高橋ビル(外郎)にカンパの町並みが広がる。その対比がジャカルタらしい。



最近気に入っている撮影士は朝陽、朝の光、マシンの音、空撮、燃えるような空撮など。

インドネシアの若者
近藤達郎さん
今年の独立記念日に、自宅近くにある東ジャカルタのカリマンで、若者が川に相手をたたき落とすグブック・パンタル(杖たき)をしている様子を切り取った。



EPSON advertisement for Photo Series printers, featuring images of the printers and people using them.

Canon advertisement for EOS 7D camera, featuring a photo of a man with a camera and technical specifications.

Sony advertisement for VAIO laptops, featuring images of the laptops and text about their features and warranty.

Cosmo advertisement for Japanese convenience store products, featuring images of various food items and promotional text.